

# カトリック六甲教会 教会報

2009

6

No.450

## 恵まれた巡礼に参加して

安芸 瑛一 神父

5月14日(木)から22日(金)にかけて、イスラエルの巡礼に参加してまいりました。この旅は本当に恵まれたものでした。毎日が晴天に恵まれ、「教皇様のイスラエル訪問」直後であったので、客足が何処も少なく、人の波という事は考えられないほどすいていました。また添乗員河谷氏の配慮で、早朝ミサが始められるように手配いただけましたので、静かな聖堂でしかも主祭壇でミサを捧げることができました。

そして素晴しく良かったことは、長い間車椅子生活をされ、リハビリによって歩けるようになったあるお嬢さんが参加されたことでした。彼女はオリーブ山の坂を下りる時、大変苦労されました。次の日、河谷氏の配慮でホテルより車椅子を借り、参加者の方々が一丸となって彼女を支え合いました。特にエインカーレムの『ご訪問の教会』入り口に向かう坂道では車椅子にロープを縛りつけ、イスを押す人、ロープを引く人、皆さんご協力下さいました。帰りの下り坂も大変でしたが、無事下りる事ができました。私たちは彼女を中心に気持ちが一いつになって、家族的な巡礼ができました。彼女も感謝の気持ちを表しておられました。彼女にとって素晴らしい体験だったに違いありません。本当に恵み豊かな旅であったことに感謝しています。

イスラエルを旅するたびに感じることは、イスラエルの自然はイエスの歩かれたところ、呼吸されたところ、イエスの見られた山々そのものであるということをも黙想でき、本当にイスラエルに来て良かったと感じます。

今回は私と河谷氏を入れて12人という少人数でしたが、イエスの宣教の足跡を巡り、イエスの愛のメッセージたる福音、イエスの風が参加者ひとり一人に吹き寄せたのではないのでしょうか。

ご参考までに巡礼地を下へ記します。

14日(木) 13:35 関空発、ソウル経由、テレアビブ着 22:15

15日(金) カエサリア 『港』『官邸跡』『野外劇場』『水道橋』  
ナザレ 『聖告知教会』『聖家族教会』『シナゴーク』

16日(土) カファルナム 『山上の垂訓教会』  
『2匹の魚と5つのパンの奇跡の教会』  
『ペトロの姑の家』『シナゴーク』

クルシ 『教会遺跡』(イエスが悪霊を豚に乗り移らせ、撃退した縁の教会)

ゴラン高原

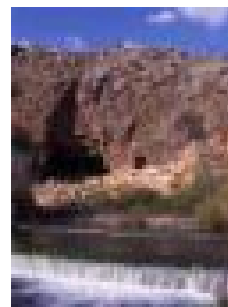
ヨルダン川源流 『フィリポ・カエサリヤ』

17日(日) カナ 『婚礼教会』

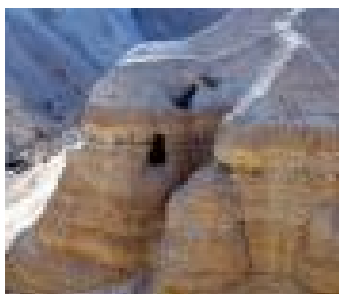


カエサリヤ

- タボル山 『ご変容の教会』  
 タブハ 『ペトロ首位権教会』  
 ガリラヤ湖 (乗船し、湖上よりガリラヤ地方を眺める。)  
 18日(月) 『死海』『マサダ』『クムラン』『ユダの荒野』  
 19日(火) エレサレム 『万国国民教会』『主の祈りの教会』『涙の教会』  
 ベトレヘム 『降誕教会』『聖カタリーナ教会』  
 20日(水) エルサレム 『宮の山(黄金のドーム)』『嘆きの壁』  
 『鶏鳴教会』『ピア・ドロローサ』  
 21日(木) エルサレム 『聖墳墓教会』(ゴルゴダの丘)『最後の晚餐の部屋』  
 エマオ  
 エインカーレム 『ご訪問の教会』(マリアがエリザベートを訪ねられた)  
 22日(金) 00:30 テレアビブ発 ソウル経由 関空着 20:55



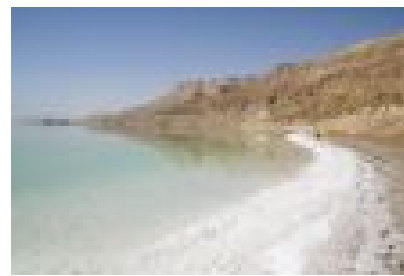
フィリボ・カエサリヤ



クムラン



マサダ



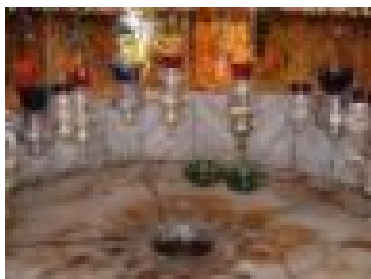
死海



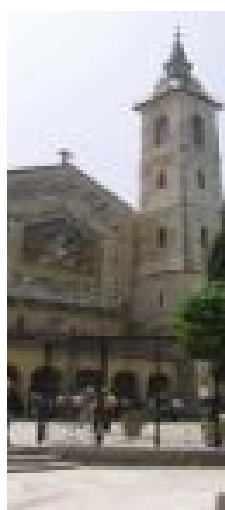
降誕教会入り口



ピア・ドロローサ



イエスが生まれた場所



ご訪問の教会



最後の晚餐の部屋

「小教区評議会」からのお知らせ

「小教区評議会年次報告会」開催

日時: 6月14日(日) 11時ミサ後

場所: 大聖堂

新型インフルエンザ発生にともなう教会閉鎖のため、5月17日の予定は上記日時に変更となりました。  
信徒のみなさまへの年次報告会ですので、多数のご参加をお願いいたします！

📖 図書紹介

『パウロの福音』

カルロ・マリア・マルティーニ著

女子パウロ会 2009年

この人の本はどれもすばらしいと断言したくなるのがマルティーニ枢機卿の著作です。師はもともとイエズス会士で新約聖書学者であり、グレゴリアン大学の学長を勤めた後、ヨハネ・パウロ2世によってミラノ教区大司教に任命された方です。日本語にも多くの翻訳がありますが、今回ご紹介するのが『パウロの福音』です。

この本では、パウロのシンプルさと複雑さがともに明快に示されています。シンプルなのは、復活したイエスに出会って以来、一途にそのイエスに付き従って生きたということです。複雑さとは、パウロ自身が反逆者であったことの負い目を背負いながら、懸命に福音宣教をしながらも苦しい人生を生きたという「信仰はそんなに簡単ではない」事実にあると思います。

パウロ年を過ごしている私たちにとって、どうしてベネディクト16世がパウロ年を設定したのかを解き明かしてくれる本であると思います。ぜひ一読を！

吉村

## 「聖体授与の臨時の奉仕者」黙想会 2009年4月26日(日)13:30～



東神戸地区（住吉、六甲、神戸中央）の「聖体授与の臨時の奉仕者」黙想会が、4月26日（日）六甲教会で行なわれました。

最初に聖堂でコリンズ神父様から、「奉仕者」としての自分の立場を考える上でのヒントとなるお話を伺いました。その中で神父様がおっしゃって下さった「信徒は司祭にとってありがたい存在、教会の雰囲気をつくるのに大切な存在です。」というお言葉は、大きな励ましのメッセージとして参加された方々の心に届いたようでした。

その後、4つのグループに分かれて、「1. 聖体を渡すことは神さまからのお恵み。そのお恵みにどのように応えようと思うか」、「2. 信徒（自分）の『奉仕』に対する評価をどのように考えるか」というテーマについて、分かち合いが行なわれました。

最後に、各グループでの分かち合いの結果を報告し、三教会それぞれの聖体奉仕に関する現状についての情報交換をして解散となりました。

約半年に一度のペースで実施されているこの黙想会は、この奉仕をさせて頂くようになって2年になる私にとりまして、今回も自分自身の姿勢を見極める為の一つの良い機会になったと同時に、また新たなエネルギーを頂くことの出来た貴重な集いであったように感じました。

鍵山

---

### 六甲アイランド地区会(報告)

5月10日(日)安芸神父様、地区会コーディネーター大橋様にご臨席いただき、お世話になった高山様ご夫妻の歡送会をかねて、本下様宅で地区会を行った。

高山様ご夫妻のご近況をお聞きするとともに、参加者からそれぞれの状況をご報告いただいた。世話人から、教会にこれない方に「聖書と典礼」「教会報」や「改定された評議会規約」などをお渡した。

最後に安芸神父様から含蓄のあるお説教をいただき、祈りのうちに閉会した。出席者14名&子供たち3人。次回は11月に実施予定。

榎木

---

### 壮年会の「典礼勉強会」

祈りのない教会はありえないでしょう。また、祈りには個人の信仰に基づく祈りと、信仰共同体としてともに祈る祈りがあります。典礼は、広義にはともに祈る祭儀を指します。狭義にはカトリックの公式の祈り、つまりミサのことを言います。

さて、壮年会ではこの典礼について、典礼総則や歴史的経過など互いのディスカッションを交えて勉強しようと言うことになりました。6月から第3日曜日の9時のミサ後を勉強会に当てたいと思います。この大切な典礼について深める機会として気楽にお集まりいただければと思います。



## 初聖体・祝福式



晴天の4月19日、10時ミサの中で初聖体・祝福式が行われました。

初聖体7人、祝福3人の計10人が受けました。この学年は他学年に比べ人数が少ないですが、とても元気で日頃からにぎやかな学年です。

式の中でも神父さまからの質問に「はい!」と元気よく返事をしていました。いつも元気な子ども達が、少し緊張した面持ちでいたことがとても印象的でした。

ミサ後のパーティーは、新2・4年生の保護者の方々が料理等を準備して下さり、とても心のこもったパーティーになりました。保護者の方々、ありがとうございました。

私自身、リーダーとして初聖体・祝福式を担当することはこれで3回目ですが、毎回とても良いものを受け取ってきています。2年生クラスを今年度は受け持たず、今回で最後かもしれないと思い、感慨深いものがありました。

最後になりましたが、初聖体・祝福式を受けた子ども達が今後も神様の子どもとしてより一層、よい歩みができますように。 神に感謝。  
(吉村リーダー)

「はつせいたい」

内田

わたしはさいしょ、きんちょうしていました。だけど、なんかみんなにかこまれていたら、なんだかおちついた。さいごのろうそくをもっておいのりしたあとに、なんかいつもげんげんが、ふざけてるから もやされるかもしれないと思いました。

「はつせいたい」

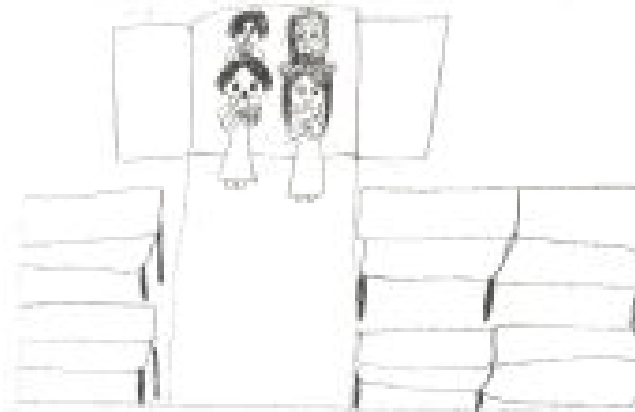
藤原

ぼくははつせいたいのミサのときに、せいしよろうどくをしました。まったくうまくできなかったと思いました。でもみんなからおちついてうまくよめたねといわれました。うそを言ってるのかと思いました。ごせいたいはおいしかったです。

「しゅくふくしきをして」

松井

はじめて、しゅくふくしきをうけました。入じょうする時ドキドキしました。わたしは、せんとうだから、いすにすわる場しよをおぼえないといけないので、たいへんでした。ほんばんの時、せいこうして、ほんとうにうれしかったです。来年の3年生もがんばってほしいです。



上記以外の子供達の感想は、JesusKids5月号に掲載されています。ぜひご覧になってください。

## 各部だより

### ☞三日月会

【例会】6月15日(月) 14時～ ミサ  
マシア神父様お話  
ビデオ鑑賞

### 【三日月会喫茶】

6月7日神戸地区大会開催のため、6月はお休みいたします。

### ☞壮年会

壮年会では yahoo に登録された人たちにメールで各種連絡をしています。新規に登録を希望される方は事務局まで氏名とメール・アドレスをメールしてください。事務局:ekabf008@ricv.zaq.ne.jp

### ☞婦人会

6月5日(金) 初金ミサ 10時  
婦人会遠足(京都)

### ☞青年会

6月14日(日)松村神父様の歓迎会予定  
「定例会」はお休みにします。  
6月28日(日) 12:30 ~ 定例会  
(助任司祭室)  
内容:「分かち合い」等を予定

### ☞社会活動部

次回連絡会: 7月3日(金)婦人会例会後



## 送別囲碁・将棋大会を終えて



去る3月14日、第14回桜井神父様送別囲碁・将棋大会を開催致しました。過去の大会以上に大勢の参加者が集い(参加率72.5%)、熱戦が繰り広げられました。桜井神父さまは、最後の聖戦とも言うべき今大会には特に力を入れ、特訓までされましたが、残念ながら3位に終わりました。「神は我を忘れたもうたか」・・・神のご加護は如何に？ちなみに優勝者は、囲碁では堀氏、将棋は武田でした。

ここで囲碁・将棋同好会の歴史を振りかえってみましょう。桜井神父様が六甲教会に赴任され約1年後の平成14年1月26日にスタートし、今年の4月で8年4カ月になります。

初会当日の参加者は、桜井、山田、河野、中口、武田の5名でスタートしました。この間信徒の方は(男女)勿論のこと、小学生、中学生、高校生、一般の方等、幅広く皆様に親しまれてきました。中間期には50名を超えるほど会員が増えていましたが、現在は40名です。最近では5～6名の参加者で毎週土曜日1時より細々と開いております。

大会終了後、レガースにおいて送別パーティを行い、25名の参加者で大盛況。話題には、神父様が東京で囲碁の腕を上げられて、六甲教会へ挑戦状を突き付けてくるかも・・・?とにかく我々も日々切磋琢磨し、いつ挑戦を受けてもそれに対応できるように普段から準備をしていなければならない。と痛切に思う今日この頃です。

東京には囲碁の聖地である奨励会があり、ここで腕を磨き、六甲道場へ挑戦状を突き付けて来そうな気がします。同好会の顧問として長年お世話になりありがとうございました。しばらくは望郷の念に悩み、毎夜、都の空を見上げながら、時々、我々の事を思い出してくだされば幸いです。

桜井神父様の益々のご活躍をお祈り致しております。神に感謝。

同好会世話役 武田

## 「米沢の殉教者・列福記念式典と東北巡礼」に参加して

中村

5月13日から16日までの4日間、阪急交通社の企画した東北巡礼ツアーに参加しました。

昨年11月24日長崎での列福式に先立って、9月20日垂水教会で行われました、溝部司教の“ペトロ岐部と187殉教者について”の講話に出席しました。その席上で司教が話された「米沢の殉教者53名」に非常に感銘を受け、いつか機会があれば是非殉教地を訪れたいと思っておりました。

この度、カトリック新聞に上記の巡礼企画が掲載されているのを見て、参加することにしました。巡礼参加者は42名で、福岡教区から硫黄神父が同行されました。参加者は北は北海道から南は長崎（五島、外海）まで、関東（東京、横浜、横須賀など）、名古屋、岐阜、大阪、神戸など各地から集っていました。

巡礼初日の13日は水沢教会（岩手県）でミサを捧げた後、ヨハネ後藤 寿庵の足跡を訪ねました。（伊達藩から追放されて以降の寿庵の足取りは不明です）初日の夕食時に自己紹介がありましたが、簡単にとの司会者の言葉にも拘らず、各自詳しく紹介があり、予定時間をオーバーしましたが、これで巡礼の道中、お互いに和やかな雰囲気となりました。

二日目の14日は大籠キリシタン殉教公園（宮城県）を訪ねました。大籠は伊達藩の製鉄地帯で、キリシタンの里でありましたが、江戸時代初め300人を超す信徒が殉教した場所です。数箇所の処刑場があり、打ち首、磔、晒し首など悲惨な処刑が行われました。カトリック大籠教会は、祭壇に十字架があるだけで、装飾は一切無く、白壁に手書きの「十字架の道行き」があるだけの平屋建ての質素な家です。これほどシンプルな教会は初めて見ました。信徒数も少なく、年に一度8月にミサが捧げられるとのこと。主日のミサは、隣り部落のカトリック米川教会で行われているとのことでした。私達のこの日のミサは米川教会で捧げました。米川教会は、下山手教会出身の故小林 有方司教が仙台教区長の時（1954年）に献堂された教会の由です。



カトリック大籠教会

三日目の15日は仙台キリシタン殉教碑を訪ねました。伊達 政宗の時代、幕府の弾圧によりカルワリオ神父（福者）と8人の信徒（武士と農民）が広瀬川で水責めの拷問を受け、殉教した場所です。この日のミサは、仙台教区司教座聖堂である、元寺小路教会の小聖堂で捧げました。私が30年前に訪れた当時の木造教会は、近代的な聖堂に建て変えられていました。

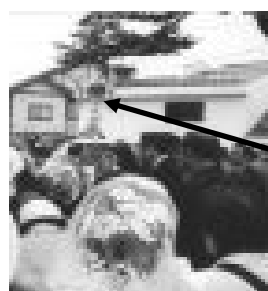
最終日の16日は、今回の巡礼の目的である北山原（ほくさんばら）殉教地で行われた、新潟教区主催の「米沢の53名の殉教者」の列福記念式典に参列しました。北山原殉教地は米沢市内にあり、街角の公園ほどの広さの敷地です。この地において藩主の御側用人として信頼のあった、ルイス甘粕 右衛門と52名の信徒が1629年1月12日に処刑されました。当時、米沢には約3,000人の信者がいましたが、甘粕 右衛門を中心として、「目覚めていた信者」による自立した教会、現在の日本の教会が目指している「信徒の教会」が約380年も前の時代に確立していたという事実、現代に生きる私達は驚きと感動を覚えます。列福された53名は初日に処刑された人達であり、二日目以降の処刑者と合わせて北山原の殉教者は72名となります。

当日の参加人数について主催者側では、約700人と予想していたそうですが、実際には1,000人を超える参列者があり、狭い会場は超満員となってご聖体も不足し、信徒の全員には行渡らず、私達は司教様の祝福を頂きました。厳しい迫害に耐えて、信仰を貫いた殉教者の列福を祈念するのに相応しい場所で行われた式典でありました。四日間天候に恵まれ、同行された硫黄神父と42名全員、元気に東北の殉教地巡礼が出来ました。

主のお恵みに感謝しています。この度の巡礼で頂いたお恵みを信仰を深める糧としていきたいと思えます。



米沢・北山原殉教地(式典会場)



マカオから返還された聖遺物を捧持して、司教・司祭退場。（式典会場）

## 《 お知らせ 》



### 社会活動部より

- 6月3日(水) 10:00 手芸の集い 第1・2会議室  
どなたでも参加ご自由です。
- 6月13日(土) 10:00 炊き出し  
小野浜グラウンドにて配食や、おじさんたちとのお話し相手だけでもOKです。
- 6月21(日) 10:00 ブックフェア  
パウロ書店の本販売や、手芸部作品販売等。  
手作りコーナーも同時開催。

ブックフェアは年に1度です。どうぞ皆様ふるってご参加ください。

社会活動部は、いろんなボランティア活動をしているグループの集まりです。ボランティアにご興味のおありの方、少しでも皆様の時間と手をお貸しください。

### 養成部より

- 6月27日(土) 10:30~12:00 第1・2会議室にて  
命の講座「いのちの重み」  
マシア神父
- 6月28日(日) 13:30~16:00 大聖堂にて  
パウロ年講演会 「パウロ年終わりにあたって」  
百瀬 文晃神父(山口教会)



### カトリック神戸地区大会 篠山で会おう ~きずなの恵み~

日時：6月7日(日)  
13:30~16:30  
会場：たんば田園交響ホール(篠山市)  
内容：ミサと小教区の交流

### ブックフェア

日時：6月21日(日)  
10時~  
場所：イグナチオホール





## 典礼聖歌の練習

～片柳神父ブログ「道の途中で」やぎいの日記(40)より～

片柳 弘史 神父

教会で典礼聖歌の研修会があった。大阪大司教区の有志の信者さんたちが集まって、年に2回行っている研修会だそう。教区中から150人くらいの人たちが集まっていた。午前中は追悼ミサがあったりして参加できなかったのだが、午後だけ参加させてもらい、最後に歌ミサを甲子園教会の松本武三神父様と一緒に共同司式させていただいた。

朝から体調もよくなかったし、実はあまり積極的に参加したわけではなかったのだが、参加してみて驚いた。歌われていた聖歌の一つ一つが深く心に沁みこみ、心を揺さぶったからだ。これが普段歌っているのと同じ聖歌だろうかと思うくらいだった。東京から来ておられたボイストレーナーの方の指導もすばらしかった。彼の指導で、ただでさえ素晴らしい歌声が、さらにどんどんよくなっていくのが分かった。



練習によって磨かれた美しい聖歌をちりばめた最後の歌ミサは、まさに恵みのひと時だった。松本神父様がお説教の中で、「歌が今、生まれてきたようだ」と言っておられたが、まさにそんな感じだった。何十年か前に作曲され譜面に残された歌に、集まった人々によって今、新たな命が与えられたのだ。普段聴きなれた一曲、一曲がほんとうにまるで違う歌のように聞こえた。一曲一曲が、感動と喜び、感謝に満たされた力強い祈りとして天に立ち昇っていくのがわかった。

美しい歌声の響きは聖霊の力そのものだ。会衆席から押し寄せてくる聖霊の力に満たされながら、一言一言に心をこめて奉献文を歌うことができた。テゼの祈りのときにも感じたことだが、歌による賛美は想像を超えるほど大きな力を秘めているようだ。神を賛美する声が歌になったとき、その歌はたくさんの人々の思いと感情を一つに紡ぎ上げながら天に舞い上っていく。その祈りは天に届き、歌っている人々の心に大きな恵みが天から惜しみなく注がれる。歌ミサでは、そんなことが起こりうる様だ。典礼聖歌が秘めた計り知れないほど大きな力を、改めて感じさせられた一日だった。

「第52回典礼聖歌講習会」(4月29日)は、六甲教会からは典礼部が協力をして開催されました。



満開のしゃくなげ。森林植物園にて。

撮影：片柳弘史神父



## 2週間ぶりの日曜ミサ

5月16日(土)国内で初の「新型インフルエンザ」感染患者が、教会近くの高校に通う生徒と判明したことから、教会も大阪大司教区のご指導のもと、16日(土)から約1週間、ミサを始め、教会内の多くの集会を取止めました。

そして、今日(5/24)は2週間ぶりの主日ミサ。ミサの時間が近づくとつれ、聖堂にはマスクをした家族連れや信徒の皆様が三々五々席に着き、聖歌とともに静かにミサが始まりました。さすがにいつもの日曜ミサよりは参列者の数も少なく、子供の数もわずかでしたが、2週間ぶりにミサに与える幸福感と喜びが聖堂内を包んでいました。

今日のミサは、まだ「新型インフルエンザ」が終息しているわけではないので、聖堂入り口には「手指消毒液」が置かれ、聖水も使用禁止。奉納行列もなく、ホスチアは祭壇で準備され、献金も参列者の席に籠を回さず、献金箱に入れてもらう方式に変わっていました。

これからも、まだまだ「新型インフルエンザ」の影響が残るかも知れませんが、共にミサに与る喜びと大切さをあらためて感じさせられた日曜日でした。  
(広報部 蛭田)



いつもより空席が目立つ9時ミサ。



マスクをしてミサに与る小学生たち。

## 6 月 の 予 定

		教会暦	教会行事
1	月	聖ユスチノ殉教者	
3	水	聖カロロ・ルワンガと同志殉教者	
5	金	聖ボニファチオ司教殉教者	初金 7:00 10:00 ミサ 婦人会遠足(京都)
7	日	三位一体の主日(祭日)	7:00 9:00 ミサ 13:00 神戸地区信徒大会(篠山) 17:00 海星病院集会祭儀
11	木	聖バルナバ使徒	
13	土	聖アントニオ(パドバ)司祭教会博士	
14	日	キリストの聖体(祭日) <両形態拝領>	11時ミサ後 小教区評議会年次報告会及び 松村神父歓迎会 17:00 海星病院ミサ
15	月		14:00 三日月会 ミサと例会
19	金	イエスのみ心(祭日)	7:00 10:00 ミサ 15:00 聖体賛美式
21	日	年間第 12 主日	ブックフェア 13:30 典礼奉仕者の集い 17:00 海星病院集会祭儀
22	月		11:00 ベビーとママの集い
24	水	洗礼者聖ヨハネの誕生(祭日)	
27	土		10:30 命の講座
28	日	年間第 13 主日 聖ペトロ使徒座への献金	13:30 百瀬神父講演会 13:30 典礼奉仕者の集い 17:00 海星病院ミサ
29	月	聖ペトロ 聖パウロ使徒(祭日)	

### 広報部員のつぶやき

新型インフルエンザ発生。静まりかえった町は少し不気味なくらいでした。今はまた学校にも子供たちの解放されたような賑やかな声が響いています。通勤電車はいつもの混雑に戻ってしまいましたが、何といっても“元気”と“活気”が一番ですね。FadA

<p>教会報7月号の発行は、6月28日(日)です。 編集会議は6月21日(日)です。 記事原稿は、6月14日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。 (広報部) <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p>	<p><b>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</b> 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 発行責任者 松村信也 神父 編 集 広 報 部</p>
--	---